

■井上通女 作家。文芸の才が愛され諸侯が招聘。文武をかねそなえていた。

いのうえつうじよ

1660= 讃岐国丸亀城西の郭内で、藩士井上儀右衛門本固の娘に生まれる。

祖父は片桐且元の弟で大坂の陣に敗れて隠棲、その長男(父の兄)は京極忠高に仕えてその病死に殉死したため、父が忠高の跡を継いだ高和に学者として召し抱えられられ、高和が龍野から転封で初代丸亀藩主となったのに従って讃岐入りしてまもない時期に、父の兄の友人渡辺監物の娘を母に生まれ育ち、

酒井忠清大老1666= 6歳 :

幼い頃から聡明で、父について和漢の書を学び、書・詩歌をよくした。

ジャクシャインの乱 1669= 9歳 :

さらに、師について書を習い、文献を渉猟、家事や武士道にもすぐれ、

談林派俳諧・1675=15歳 :

早くも、自分の信ずるところを「処女賦」としてまとめ、  
\_続いて、詩文「深閨記」を書いて、その天才ぶりが評判となり、“少女博士”ともてはやされる。  
\_父が春秋ごとに、通女の詩を江戸の林鷲峰に送って教えを乞ううち、

藤十郎登場・1678=18歳 :

\_江戸藩邸にいる2代藩主京極高豊の母養性院の求めで、高豊から江戸に出ることを命じられ、

徳川綱吉將軍1680=20歳 :

天下一禁止・1681=21歳 :

\*それまでの詩歌「往事集」をまとめた後、父に連れられ、江戸に出る。道すがら日記「東海紀行」著す。  
\_江戸では養性院に寵愛され、始めは主家の家事をきりもりしていたが、その才を認められて侍女や妾に文芸を教えるようになり、

堀田正俊暗殺1684=24歳 :

\_さらに、養性院を通じて、江戸在住の雨森芳洲・柳生松女ら学者・文人と交わるとともに、諸侯からもしばしば招きをうけ、

生類憐令始・1687=27歳 :

\_父の師林鳳岡に年頭試筆を呈上して鳳岡から和韻の詩が送らると、評判となって詩文を求められるようになり、室鳩巢が‘彼女が男子であれば英雄になるだろうに、惜しいことだ’と書くほどの存在になるが、  
\*養性院が痼瘡で死去。悲しみの中、諸藩からの招聘を断り、丸亀に帰る。江戸にいる時のことは没後の「江戸日記」にまとめられ、丸亀に帰る時のことは「帰家日記」となる。  
\_まもなく、藩士の三田宗寿と結婚、

1689=29歳 :

芭蕉+師宣没 1694=34歳 :

\_父が死去。弟が継ぐことになっていたが、妾が殺傷事件を起して切腹、井上家は断絶する。

生類憐令頂点1695=35歳 :

荻原勘定奉行1696=36歳 :

\_家庭では良き妻として夫に仕え、学問のことは控えながら、3男2女を生み、貧しい家計のなか、糸を紡ぎ裁縫に励み、困苦欠乏に耐えながら家事をつとめるうち、

団十郎刺殺・1704=44歳 :

この頃、\_夫の親戚久留米藩士が自ら育てていた牡丹のを画工に描かせ、自らの歌をつけた本を出す際に、求められて序文を書くと、跋を頼まれていた貝原益軒の妻東軒に感心され、益軒から求められて、「帰家日記」を送ったところ、‘有智子親王以来の人が’と激賞される。

御蔭参流行・1705=45歳 :

徳川綱吉没・1709=49歳 :

1710=50歳 :

\_夫が死去。

冥途の飛脚・1711=51歳 :

さらに姝と、

乾山陶器店・1712=52歳 :

舅が相次いで死去する。

絵島事件・1714=54歳 :

\*長子宗衛が嫁を迎えたので、家を継がせて隠居、自らは和歌をつくり、典籍に親しむ。

徳川吉宗將軍1716=56歳 :

火の見櫓制・1723=63歳 :

近松没・1724=64歳 :

\_江戸詰めの三男義勝が自ら書いた論について意見を求められると、添削して論すなどし、

\_その薫陶で、のち義勝は藩の侍読となる。

享保大飢饉・1732=72歳 :

昆陽蕃藷考・1735=75歳 :

\_中風にかかり、以後病臥し、

1738=78歳 :

\_没した。

没後、「家訓」「江戸日記」「続往事集」「括囊集」「統括囊集」「秋燈集」「和文記」「古今序考」「源語秘訳開書」「宗川子歌断」「三島伝考」「三草三本集」「俳諧麦集」が刊行された。

「人づくり風土記(香川)」、「日本の女性」、